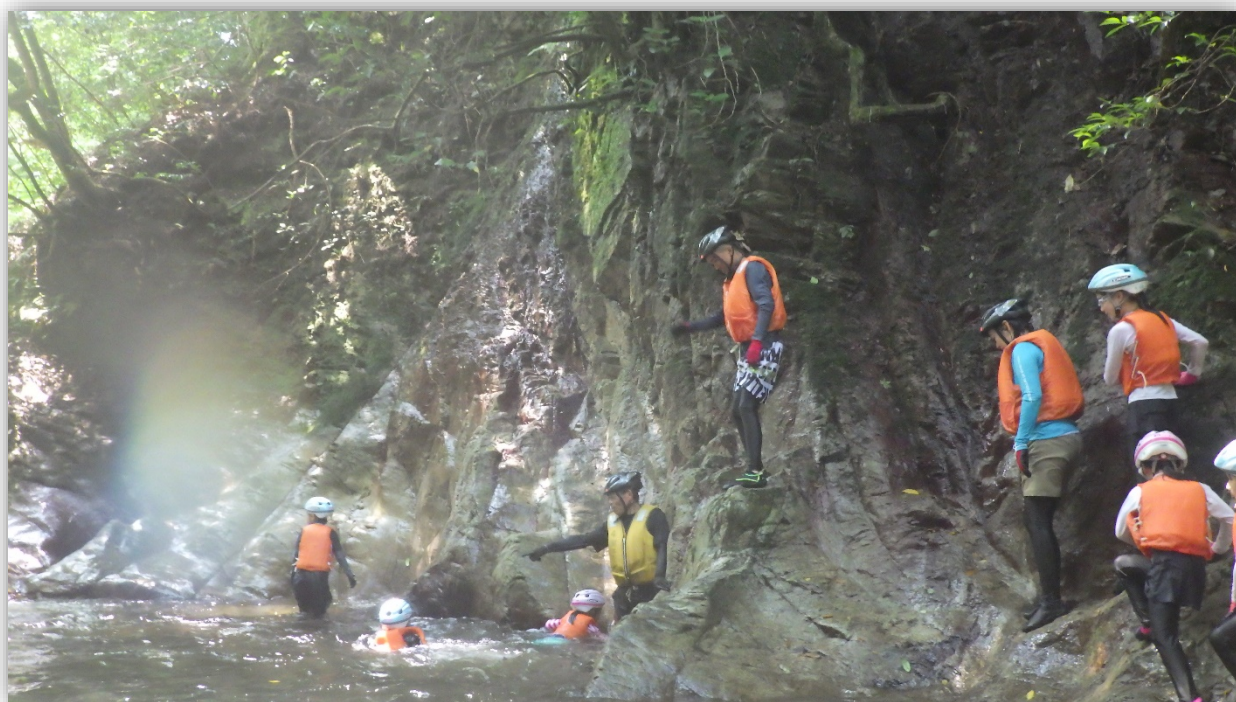


令和元年度



地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

報告書



—「沢谷川の沢登り ～シャワークライミング 2019～」より—

三瓶地域協育ネットワーク

1. 事業の趣旨

島根県の三瓶山周辺では、魅力ある地域資源を生かした様々な体験活動を推進するため、行政はもとより、民間活動団体が事業を展開している。

これらの活動が、より地域に普及・定着するためには、体験活動が子どもの成長にとっていかに重要であるかということ、事業を主催する側はもとより、広く一般の方々に理解してもらうことが必要である。

令和元年度は、本事業において、連携団体が体験活動事業を実施する「地域は体験の宝庫！」で8事業、地域へ出向き、体験ブースを設置して体験活動の普及・啓発を行う「体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば」で12事業を展開した。また、41回目を迎える「さんべ祭」では、石見神楽を上演するなど、三瓶山周辺地域がより多くの方に親しまれ、愛されるように、地域に密着したイベントへと移行して実施した。さらには、地域体験活動情報誌「いわみん」を活用することにより、三瓶山登山や牧場体験のできる宿泊事業、むかしのくらし体験等の事業の展開、「さんべまると体験マップ」「さんべ祭」の広告を掲載し、広報を進めることができた。

三瓶周辺の各団体や事業所・行政機関等が連携して活動することにより、体験活動に関するお互いの考えや活動の様子を知る機会を創出することができ、新たなネットワークが構築され、地域全体で体験活動を推進していく機運が高まっている。今後も、各諸団体との連携を深めていくことはもちろん、新たに連携先を拡げ、本事業を展開しながら体験活動を普及していく。

さらに、これらの活動を他のエリアにおいても普及することを目的に、引き続き「子どもの体験ひろば」を県内外で実施するとともに、三瓶地域の活動及び成果を広く広報し、「体験の風をおこそう」運動を推進する。

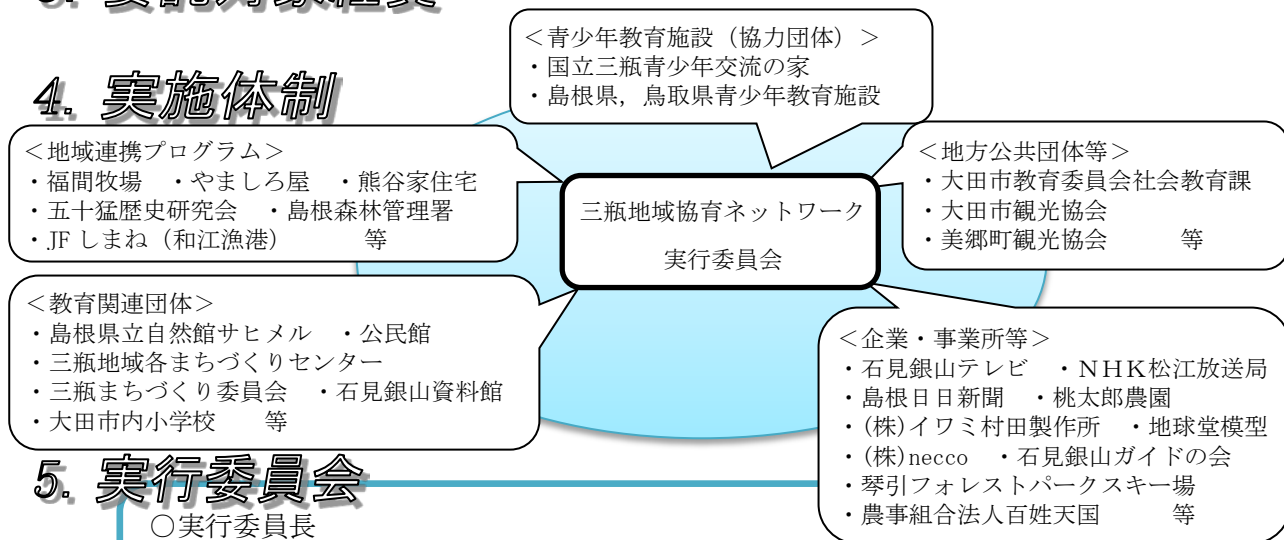
2. 委託期間

令和元年5月17日～令和2年1月26日

3. 委託対象経費

3, 160, 000円

4. 実施体制



5. 実行委員会

○実行委員長

宮本 隆正

○実行委員（順不同）

霊山 晃二

中村 和也

山根 都

中間 功

福間 聖治

矢田 千里

林 能伸

三島 賢三（監事）

伊藤 康丈

西嶋 一泰

国立三瓶青少年交流の家所長

大田市教育委員会社会教育課 課長

（一社）大田市観光協会 事務局次長

美郷町観光協会 事務局員

三瓶まちづくり委員会 会長

福間牧場 代表

子ご美の里 代表

五十猛歴史研究会 事務局長

農事組合法人百姓天国 事務局長

イワミノチカラ 代表

山村留学センター 職員

6. 会則

三瓶地域協育ネットワーク 会則

(名称)

第1条 この会は、「三瓶地域協育ネットワーク」という。

(事務局)

第2条 この会の事務局は、島根県大田市山口町山口 1638-12 におく。

(目的及び事業)

第3条 青少年の健全育成を目的とし、三瓶周辺の魅力ある地域資源を生かした体験プログラムを企画・運営し、地域全体で体験活動の場と機会を拡充する。また、島根県内外の関係機関・団体等が連携し、体験活動に関わる指導や企画・運営、ボランティアに関わる者の資質や能力の向上を図る取組も併せて実施する。活動を通じて多くの人々との交流を深め、地域のつながり・絆を強化し、地域活性化に資することを目的とする。

(構成員)

第4条 青少年教育施設や地方公共団体等を中心として、学校、青少年団体、企業、民間教育機関・団体等、NPO 法人等の関係者により構成する。

(会議)

第5条 この会の議決を行う機関として、実行委員会をおく。

2 実行委員会は、年3回程度開催し、次の事項を議決する。

(1) 年度事業計画

(2) 年度事業報告及び決算の承認

(役員)

第6条 この会に次の役員をおく。

(1) 実行委員長(1名) 実行委員長は本会を統括し代表する。

(2) 監事(1名) 監事は本会の会計を監査する。

2 役員は実行委員会において互選する。

(事業及び会計年度)

第7条 この会の事業年度は、毎年、5月1日から翌年の3月31日とする。

(付則)

この会則は、平成27年6月1日から施行する。

7. 令和元年度の事業内容

体験活動を推進していくための継続的な取組

2月13日（木）

実行委員会開催（交流の家 第1研修室）

- 令和元年度事業報告について
- 令和元年度会計報告について
- 令和2年度事業計画について
- 「いわみん」について
- 「第41回さんべ祭」について
- 協議・意見交換

通年

- 「三瓶地域協育ネットワーク」HPでの情報発信
 - ・イベント情報、さんべ便りで積極的に広報を行う。
- 事業のチラシ・ポスターでの情報発信
 - ・イベントカレンダーやチラシ・ポスターを作成し、小学校、過去利用者、近隣地域に配布等を行う。
- 地域体験活動情報誌「いわみん」を活用した宿泊事業、地域の体験事業を展開するとともに、三瓶地域の活動及び成果を広く広報し、「体験の風をおこそう」運動の推進を行う。
- 報道機関による広報、普及・啓発
 - ・石見銀山テレビで放送
 - ・出雲ケーブルビジョンで放送
 - ・島根日日新聞への記事掲載
 - ・山陰中央新報への記事掲載 等

地域全体で体験活動の機会を拡充する取組

ページ

1. 「地域は体験の宝庫！」

5

①「かかし祭り」（主管：子ご美の里）

- かかしをかざって稲の収穫を祝う。

②「三瓶米づくり体験ツアー」（主管：三瓶米づくり体験ツアー実行委員会）

6

- 田植え体験ツアー
- 稲刈り体験ツアー

③「ふうりんおんせん」（子どもの体験広場⑤「GOGO 三瓶 山の日フェス」）

7

（主管：志学まちづくり・センター大田市観光協会）

- 志学のまち（温泉）を訪れる方に、風鈴の絵付け体験をしてもらい、飾る。
- キッズ体験スペース

④「沢谷川の沢登り」（主管：沢谷河童レンジャー）

8

- 沢登り体験を通して、沢谷川の自然の魅力を知ってもらう。

- ⑤自然観察系まち歩き「エキカラ」（主管：島根県立三瓶自然館サヒメル） 9
 ○自然を主テーマにした、駅発着のまちあるき型イベント
 ①静間エキカラ ②温泉津エキカラ ③仁万エキカラ
- ⑥「五十猛の歴史（グロ編）」（主管：五十猛歴史研究会） 1 0
 ○歴史と神話の里、五十猛。そこに古くから伝わる伝統行事「グロ」を子どもたちに語り、伝えていく。
- ⑦「かまどでごはんたき」（主管：合同会社 家の女たち） 1 1
 ○ナタを使ってまき割り、そのまきを使って、かまどで火を焚き、ごはんのみそ汁を作る。豪商熊谷家住宅のかまどを使ってのごはん炊き体験
- ⑧「さんべ志学の雪あかり」（主管：志学まちづくりセンター）
 ○三瓶温泉で行われる冬のイベント。ちいさなかまくらにキャンドルを灯す。

2. 「体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば」体験ブース 1 2 ～
 （主管：国立三瓶青少年交流の家）
 ①出雲ドーム d e 健康フェスティバル 2019 出雲市）
 ②伊ワミ村田製作所グリーンフェスティバル（大田市） ③サンレイク フェスタ（出雲市）
 ④ポピー祭り（飯南町志津見） ⑤「GOGO 三瓶 山の日フェス）」（西の原）
 ⑥大田市秋の彼岸市（大田市） ⑦イオンモール体験ブース（松江市・出雲市）
 ⑧島根県立少年自然の家オープンデー（江津市） ⑨みすみフェスティバル（三隅町）
 ⑩あすてらす開館20周年記念イベント（大田市） ⑪しまねふるさとフェア（広島市）
 ⑫春の彼岸市・おおだ自然エネルギーパーク 2019（大田市）※平成31年3月実施分掲載

体験活動を推進する機運を高める取組

3. 地域体験交流イベント情報誌「いわみん」との連携について 1 8
 令和元年度「いわみの国をみんなで遊ぶ いわみん ガイドブック vol.12」発刊に向けて
 ①「いわみん」の発刊及び参加状況について
 ②「いわみん」提供プログラムについて
 ③「いわみん」掲載広告について
 ④「いわみん」アンケート結果について
 ・「誰でも安心 はじめてのボルダリング体験！」 2 0
 ・「日本百名山」への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～ 2 1
 ・「さんべでミルクさんまい！ in Autumn」 2 3
4. 地域連携プログラムについて 2 5
5. 「第41回さんべ祭」について 2 7

1 事業名 地域は体験の宝庫！① 「かかし祭」

2 主 管 子ご美の里

3 開催日時 令和元年5月25日（土）9:00～16:00
令和元年5月26日（日）9:00～16:00

4 開催場所 子ご美の里

5 参加者数 子供70名 大人143名 合計213名（2日間合計）

6 内 容 ・地元の方が手作りしたかかしを飾り、自然豊かな地域の風景を楽しむ。
・米の豊作を願う。

7 事業の特色

普段来ることが少ない「佐津目」地域に足を運び、滞在していただくことで、多くの方に地域の良さを知ってもらう。地元の方々が協力してかかしを作り、販売コーナーも設け、おもてなしを行う。

8 成果と課題

<成 果> ・今年度は土曜日に近隣の小学校の日帰り遠足での参加があり、例年とは異なる形で祭を楽しんでいただけたと同時に、昨年度よりも多くの参加となった。
・かかしの数が昨年度からさらに増加し、参加者にも会場の雰囲気を楽しんでいただけた。

<課 題> ・8月の暑い時期を避け、今年度は5月末に2日間行ったが、結果的に暑い日と重なった。2日連続での開催にするかどうかを含め、運営方法については引き続き検討を行う必要がある。



地元自慢のかかしたちを、参加者に思い思いに楽しんでいただきました。



室内では石臼の体験コーナーなども設けられ、子どもたちも興味津々で、とても好評でした。

- 1 事業名 地域は体験の宝庫！②「三瓶米作り体験ツアー」
- 2 主 管 三瓶米づくり体験ツアー実行委員会
- 3 日 時【田植え】令和元年5月18日（土）
【稲刈り】令和元年9月21日（土）
- 4 開催場所 大田市三瓶町池田の田んぼ周辺
- 5 参加者数【田植え】48名（内宿泊者：3名）
【稲刈り】台風17号の影響で中止。予定参加者・宿泊者数61名（内宿泊者：12名）
※両日程とも募集人数は55名
- 6 内 容【田植え】田植えばやしに合わせての田植え※天体観察・ボルダリング（宿泊者のみ）
【稲刈り】稲刈り（実施予定内容）※天体観察・サイクリング（宿泊者のみ）
共通：昼食交流会（三瓶の食材を使用）
- 7 連携のポイント 企画・運営は主管である「三瓶米づくり体験ツアー実行委員会」が行い、三瓶地域協育ネットワーク事務局が、広報・準備等、運営をサポートした。また、実施日の荒天時に備えて、交流の家での参加者受け入れ体制の確保を行った。
- 8 成果と課題
＜成 果＞・リピーターだけではなく、新規の申し込みも多く、県内外から様々な方に三瓶地域に来てもらい、田植え体験をしてもらうことができた。また、昨年度よりも昼食交流会の時間を長く確保した結果、三瓶の自然の中でゆっくり食事を満喫してもらうことができた。
・参加者に三瓶の魅力を生かしたプログラムを提供し、喜んでいただけることが地域を活性化できる良い機会となっている。また、地元の小学校の児童が多数参加しており、地域住民同士の繋がりや世代間交流を深める良い機会でもある。
＜課 題＞・田植え、稲刈り体験共に、基本は日帰りで行っている。三瓶周辺地域で宿泊することを考え、夜および翌日の日程を組み込むことで、2日にわたっての三瓶地域の魅力発信につなげることができる。参加者の体験を深められるよう、三瓶地域協育ネットワーク事務局と三瓶米づくり体験ツアー実行委員会が、さらなる連携を図っていきたい。
・稲刈りについては、台風の影響でやむなく中止となった。予備日を設定することで、参加者が安心して参加できることにつなげられると感じた。



田植えばやしに合わせて田植え



親子で楽しく田植え体験



三瓶の旬の食材を使った郷土料理

1 事業名 地域は体験の宝庫③「ふうりんおんせん」
(子どもの体験ひろば⑤「GOGO 三瓶 山の日フェス」)

2 主 管 志学まちづくりセンター (大田市観光振興課)

3 開催日時 令和元年8月11日(祝・日) 10:00~16:00

4 開催場所 三瓶山 西の原 山の駅さんべ周辺

5 参加者数 子供412名 大人486名 合計898名

6 内容・日程

9:00	10:00	16:00
現地集合 会場準備 ブースセッティング	キッズ体育・カプラ スナッグゴルフ ふうりん絵付け	終了 撤収作業

7 事業の特色

2018年4月、大田市東部を震源とした地震の影響により、例年行われていた三瓶志学地区会場での「ふうりんおんせん」の開催ができなくなった。そのため、昨年と同様、三瓶山西の原にて開催する「山の日フェス」の中で、ブース出展として志学温泉街に飾るふうりんの絵付け体験を行った。また、大田市観光振興課の依頼により、交流の家からは、キッズ体験スペースとして、カプラ、スナッグゴルフなど「子どもの体験ひろば」を行った。

8 成果と課題

＜成 果＞・ふうりん絵付け体験・キッズ体験スペース以外にも、たくさんの体験ブースが集まり、島根県以外からもたくさんの来場があった。

- ・三瓶周辺地域で体験活動ができる場所を知らない方が多数いた。三瓶周辺地域の施設のご案内や、周辺地域では様々な体験ができる環境にあることを伝え、三瓶の魅力を知ってもらえる良い機会となった。

＜課 題＞・来場者が多いため、スナッグゴルフは、人通りの少ない場所への誘導が必要。



三瓶山をバックに、キッズ体験スペースを設置。



タープの下で、自分の身長ぐらいカプラを積み上げる子ども達。



広い高原の芝生で、スナッグゴルフを楽しみました。

1 事業名 地域は体験の宝庫！④「沢谷川の沢登り ～シャワークライミング 2019～」

2 主 管 沢谷河童レンジャー

3 開催日時

①【沢登り体験 大人向け】 令和元年7月28日(日) 9:00～13:30

②【沢谷川探検 子ども向け】 令和元年8月3日(土) 9:00～13:30

③【沢谷川探検 子ども向け】 令和元年8月11日(祝・日) 9:00～13:30

4 開催場所 沢谷交流センター

5 参加者数 ①大人5人 合計5人

②子ども14人 大人10人 合計24人

③子ども7人 大人8人 合計15人

6 内容・日程

	9:00	9:30	10:10	10:30	12:00	13:00	13:30
7/28(日) 8/3(土) 8/11(祝・日)	受付	開会行事	オリエンテーション	移動(バス)	沢登り	昼食	閉会行事 解散

7 事業の特色

地域に残る沢谷川の自然の魅力を、沢登り体験を通して知ってもらう。真夏の暑さを冷たい里の水が癒してくれる事業。

沢を登りながら、冷たい水を肌で感じ、急流を滑り、川に飛び込み、生き物と触れ合うことで、大人たちは童心に帰り、子どもたちは自然で遊ぶ楽しさを実感することができる。

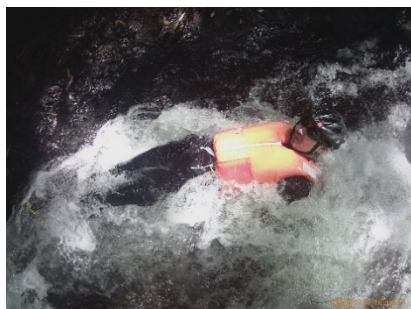
8 成果と課題

<成 果>

- ・「沢登り」という、普段できない体験を提供することができる。活動中は、困難を乗り越えることで家族間、グループ間、さらには参加者全員の一体感が生まれ、それを自然の中で感じる事ができた。

<課 題>

- ・参加者間の交流を活発にできる工夫をしていきたい。同じ事業に参加した仲間として、子供間の交流がもてコミュニケーションがもっと活発になることをねらいたい。また、大人と子供の交流も検討したい。
- ・活動を始めて5年目になり、県内外からの集客ができるイベントとなった。今後もたくさんの人に美郷町、沢谷地域の魅力を発信できるようにしたい。



1 事業名 地域は体験の宝庫！⑤「エキカラ」

2 主 管 島根県立三瓶自然館サヒメル

3 日 時 ①静間エキカラ 令和元年 5月12日（日）
②温泉津エキカラ 令和元年 9月21日（土）
③仁万エキカラ 令和元年10月26日（土）

4 開催場所 ①JR静間駅周辺 <距離 約5.5km>
②JR温泉津駅周辺<距離 約6.8km>
③JR仁万駅周辺 <距離 約4.4km>

5 参加者数 ①静間エキカラ 子供0人 大人15名 合計15人
②温泉津エキカラ 台風17号の影響で中止
③仁万エキカラ 子供0人 大人8名 合計8人

6 内 容 ○自然を主テーマにした、駅発着のまちあるき型イベント
①静間駅集合～ハマナス自生地～静ヶ窟～静間神社～静間駅解散
②温泉津集合～清水集落～温泉津温泉街～温泉津港～温泉津駅解散
③仁万駅集合～仁万海岸～満行寺～仁万駅解散

7 事業の特色 島根県立三瓶自然館の中村唯史学芸員が案内をし、参加者と一緒に駅から様々な自然景観などを巡った。

8 <成 果>

- ・ゆっくりと散策しながら、地域の歴史や自然にふれることができた。主催者だけでなく、その地域の方が案内役となって、地域の歴史や魅力を生き活きと語っており、人材発掘の場にもなっている。

<課 題>

- ・歩きやすい季節が春と秋なので、やむをえないかもしれないが、予算執行の都合上、1回目をもう少し後半にずらすとよい。



中村唯史学芸員から、大田の魅力聞きながら、まち歩きをしました。



仁万海岸では、地層や石を見ながら歴史に触れました。



満行寺では、迫力ある鰻絵（こて絵）を見ることができました。

1 事業名 地域は体験の宝庫！⑥「五十猛の歴史（グロ編）」

2 主 管 五十猛歴史研究会・西部まちづくりセンター

3 開催日時 令和元年1月14日（火）10：00～12：00

4 開催場所 五十猛町大浦海岸、韓神新羅神社

5 参加者数 子供82名 大人77名 合計159名

6 内容・日程 ○講演会と「グロ」の見学

10：00	11：00	12：00
<学習会> 「改めて“グロ”を学ぶ ～五十猛のグロの秘密を探る！～」	<“グロ”の見学と体験活動>	解散

（講師）多田 房明 氏（山陰民俗学会理事）

木下孝二郎 氏（グロ保存会）

藤原 正明 氏（五十猛歴史研究会）

（司会・運営）林 能伸 氏（五十猛歴史研究会）

7 事業の特色（ねらい）

地元小学生や一般の参加者に、五十猛地域に伝わる伝統行事「グロ」の意義や歴史、作り方等を伝え、地域の良さに気づかせると共に、ふるさとへの愛着と誇りをもたせることをねらいとしている。また、「グロ」を守り続けている保存会や、地域の人との交流を通して、「グロ」の楽しさや地域の人とのつながりを実感させる機会としたい。

8 成果と課題

<成果>・今年度は、静間小学校の児童も参加することができ、地域の伝統行事について学習する機会を設けることができた。また、小学生同士の交流の場とすることができた。

・講演会に先立ち、神社参拝の手順を伝えたり、神楽笛の演奏を聞かせたりして、地域の神話や伝承に対する興味関心をより高めることができた。

・一般の方の参加も昨年より多く、継続の成果が表れている。

<課題>・小学校の授業日に合わせて学習会を開催するため、今年度はグロの初日（11日祝日）とは重ならなかった。地域の方々からは、材料集めや、組み立ての手伝いなども体験できると、より子どもたちに実感として伝えることができるのではないか、という意見もあった。今後も改善を加えながら、継続させていきたい。



天候も穏やかで、見学にも最適でした。



多田先生の講演。子どもたちの発言も積極的でした。



グロ内部での団らん。無病息災を祈りました。グロの周囲にも、子どもたちの元気な声が溢れました。

1 事業名 **地域は体験の宝庫！⑦「かまどでごはんたき」**

2 主 管 合同会社家の女たち

3 開催日時

①令和元年7月14日(日) 10:00～15:00

②令和元年7月31日(水) 10:00～15:00

③令和元年8月11日(日) 10:00～15:00

4 開催場所 重要文化財 熊谷家住宅

5 参加者数 ①子ども3人 大人5人 計8人(3家族)

②子ども2人(幼児1含) 大人5人 計7名(3家族)

③子ども1人 大人2人 計3人(1家族)

6 内容・日程

- ・かまどを使つてのごはん炊きで、親と子、祖父母と孫など3家族程度の募集をし、むかしのくらし体験を行う。
- ・薪割りをし、羽釜のごはん、みそ汁を一緒に作って、むかしのごはん炊きを体験し、味わう。

7 事業の特色

熊谷家住宅で行っているごはん炊き体験を、家族間交流を図りながら、広く普及することで、むかしのくらしぶりについての理解と実感につなげることができる。毎月第2日曜日は、熊谷家のかまどに火を入れる「かまどの日」となっており、1回目と3回目は、「かまどの日」にあわせて開催し、2回目は、平日に開催している。

8 成果と課題

- <成 果>・島根県内、広島県北部の幅広い地域に広報することができたので、早くからの予約が入った。広島市内や松江・益田の島根県内東西部からの参加者があった。
- ・参加者は、昔のくらしを思い浮かべながら、薪割り、米とぎ、火起こしなどの作業に熱心に興味をもって取り組んでいた。
- <課 題>・初めて「地域は体験の宝庫」で取り組んだため、実施の手続きや体験料の設定等、実施までのところで、戸惑うことがあった。より、三瓶地域ネットワークと連携して取り組むことで、多くの方に充実した体験が提供できるようにしていく。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば①

「出雲ドーム de スポーツ&健康フェスティバル2019」

期 日：平成31年4月27日（土）

場 所：出雲ドーム

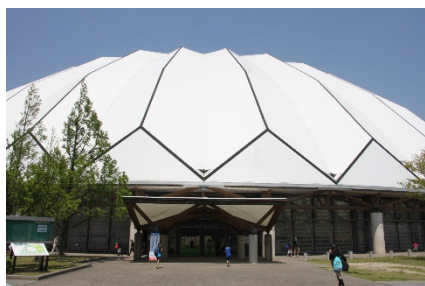
参加者数：612名（子供422名 大人190名）

内 容：ディスゲッター（ドッジビーの的抜き）

成 果・10連休の初日。昼時にかけて、大勢の来場者があった。三瓶地域協育ネットワーク事務局のブースも、大好評で、子どもたちが、途切れることなくディスゲッターを楽しんだ。繰り返し挑戦することで、上達を実感することができる点が、子どもたちに人気の要因だと感じた。

- ・チラシを配布し、PR を行った。職員が2人いることで、子どもたちの対応だけでなく、多くの保護者と会話をすることができた。三瓶周辺地域の、様々な紹介ができ、興味をもってもらえることができた。

課 題・出展の際に持ち運びができるポスターや掲示板など、大きくて、目を引くような掲示物があるとよい。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば②

「伊ワミ村田製作所・グリーンフェスティバル」

期 日：平成31年4月27日（土）

場 所：(株)伊ワミ村田製作所

参加者数：220名（子供140名 大人80名）

内 容：カプラ、キッズ体育

成 果・幼児向けマットを数種類用意し、体験コーナーを広い芝生の上に設けたことで、子ども達がコミュニケーションをとりながら自由な発想で安全に遊ぶことができた。

- ・ファミリーに三瓶地域周辺の楽しめる場所を積極的にアピールすることができた。
- ・カプラの認知度が高く、幼児から大人まで幅広い層の方が訪れカプラを体験した。

課 題・フェスティバル全体として、コンセプトを共通理解した上で出展する必要性を感じた。

- ・天候が悪く風が強かったため、広報用として用意したチラシなどを掲示することができなかった。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば③ 「サンレイク フェスタ」

期 日：令和元年5月12日（日）

場 所：島根県立青少年の家（サン・レイク）

参加者数：941名（子供575名 大人366名）

内 容：チャレンジウォールキッズ・カプラ

成 果・チャレンジウォールは、多くの子どもたちに挑戦してもらうことができた。最初は途中で足をついてしまった子も、あきらめずに何回も挑戦しているうちに上手になり、ゴールした時の達成感や喜びを共に味わうことができた。

- ・学生ボランティアが中心となって、早寝早起き朝ごはんの絵本やチラシを配布し、PRを行った。スタッフが3人いることで、子どもたちの見守りだけでなく、多くの保護者と会話をしながらPRすることができた。三瓶周辺地域の様々な紹介ができ、興味をもってもらうことができた。

課 題・出展の際に持ち運びができるポスターや掲示板など、大きくて、目を引くような掲示物があるとよい。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば④ 「ポピー祭り」

期 日：令和元年6月9日（日）

場 所：飯南町志津見

参加者数：452名（子供273名、大人179名）

内 容：カプラ、キッズ体育

成 果・天候が良く、大勢の来場者で溢れた。三瓶地域協育ネットワーク事務協のブースは、カプラ、キッズの遊具ともに大好評で、子どもたちが、入れ替わり訪れた。カプラは、大人も楽しんでいた。

- ・やまめのつかみ取り、ふわふわドームなど、子どもたちの興味を惹くようなブースが近くにあり、親子で活用する方が多かった。

課 題・話をした親の中には、三瓶地域協育ネットワークの活動を知らない人もいた。活動の内容を伝えると「一度施設にも行ってみたい」、「家族での利用を考えたい」など、興味をもたれた。多くの来場者があるイベントに参加することで、地道にたくさんの人の目に触れる機会をもつことは、大変意味のあることだと感じた。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑥ 「大田市秋の彼岸市」

期 日：令和元年9月22日（日）～23日（月）

場 所：大田市駅通り周辺

参加者数：1,175名（子供810名 大人367名）

内 容：ディスゲッター、カプラ（1日目のみ）

成 果・台風17号接近に伴い、2日間とも雨天・強風の中でのイベント実施となった。悪天候の影響を考慮して、チャレンジウォールからディスゲッターを中心とした出展内容に変更した結果、多くの来場者に体験活動を提供でき、また、1ヶ月後に控えた「さんべ祭」のPRを実施することができた。

課 題・地元大田市での開催であり、実施時期としても10月の「さんべ祭」の貴重な広報機会である。「さんべ祭」実行委員会構成団体と連携した出展内容や、「さんべ祭」のプログラムと連動した体験活動の提供について検討する必要がある。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑦

「イオンモール体験ブース」（松江市・出雲市）

期 日：①令和元年10月5日（土） ②令和元年10月6日（日）

開催場所：①イオン松江ショッピングセンター店 ②イオンモール出雲店

参加者数：①1,381名（子供 911名 大人 470名） ②2,521名（子供1,463名 大人1,058名）

内 容：島根県内の青少年社会教育3施設と合同で、以下のブースを出展

レザークラフト	（島根県立青少年の家）
目玉っちキーホルダー、ぶんぶんゴマ	（島根県立少年自然の家）
チャレンジウォールキッズ	（三瓶地域協育ネットワーク）
カプラ	（3施設共通）

成 果・大型の商業施設と連携し、島根県内の青少年社会教育施設が共同で出展することで多くの方に様々な種類の体験活動を提供するとともに広報活動を実施することができた。

・チャレンジウォールキッズでは、先にゴールした子が、友達や兄弟にアドバイスしている様子が見られた。子ども同士で声を掛け合ったり、応援をしたりする等、活動を通してつながりが自然に生まれていた。また、「つかむ」「ぶらさがる」といった普段なかなかできない動きを経験できると保護者が喜んでいた。

課 題・ボランティアの募集が遅かったため、応募人数が少なかった。開催日程を早期に調整し、募集することで、多くのボランティアの確保が期待できる。



行列のできるボルダリング体験



姉妹で協力してチャレンジ



大盛況な他施設ブース

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑧ 「少年自然の家 オープンデー」

期 日：令和元年10月27日（日）

開催場所：島根県立少年自然の家

参加者数：645名（子供281名 大人364名）

内 容：チャレンジウォールキッズ、カプラ

成 果・チャレンジウォールキッズは、多くの子どもたちに挑戦してもらうことができた。子どもたちは、1周回るだけでなく、小さい子は1枚の壁を上に登るなど、年齢や体力に合わせて挑戦することができた。

・学生ボランティアと協力して、早寝早起き朝ごはんの絵本やチラシを配布し、PRを行った。三瓶地域についての様々な紹介ができ、興味をもってもらうことができた。

課 題・学生のボランティアが1名しかいなかったため、休憩時間の確保に苦労した。自然の家で確保できない場合は、こちらから連れていくことも検討したほうがよい。



体験の風をおこそう 子ども体験ひろば⑨ 「みすみフェスティバル」

期 日：令和元年11月9日（土）

場 所：三隅中央会館

参加者数：582名（子供470名 大人112名）

内 容：チャレンジウォールキッズ

成 果・朝は雨も降ったが、昼前から陽が差して暖くなり、大勢の来場者で賑わった。昨今のボルダリング人気もあり、三瓶地域協育ネットワークブースにも子どもたちが途切れることなく訪れた。三瓶地域を宿泊体験活動で訪れた経験がある子どもたちも多く、保護者や家族連れに沢山PRすることができた。

・登山をはじめ、三瓶周辺地域の施設環境にも興味をもってもらえた。今後も県西部からの利用者の動向に目を向けるとともに、PRの機会を確保していきたい。

課 題・この時期の週末は、多くの受け入れ対応があるため、昨年引き続き、担当者1名、出展は2日開催の1日目のみとなった。来年度は、会場の配置が大きく変更になるという情報もあることから、余裕があれば2日間とも出展したい。また、現地での学生スタッフの存在が非常に有り難かった。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑩ 「あすてらす開館 20 周年記念イベント」

期 日：令和元年11月16日（土）10：00～15：45

場 所：島根県立男女共同参画センター

参加者数：290名（子供127名 大人163名）

内 容：カラーリング

成 果・閲覧コーナーに設置した「みんなでにっこり！あさごはん」の絵本を孫に読んであげたいと持って帰る方が数名おり、絵本の読み聞かせの促進につながった。

- ・カラーリングを初めて体験する家族がコミュニケーションをとりながら的を狙っていた姿が印象的だった。

課 題・イベントの趣旨から、利用者の大半は年配の女性であり、子どもや家族連れが少なかった。次回出展するのであれば、老若男女が手軽に楽しめるブースがよいと感じた。



絵本や、チラシ、幟旗を設置し自由に見てもらえるよう環境を整えた。



たくさんの来場者がイベントを楽しんでいた。



家族が、カラーリングを楽しむ様子。

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑪ 「しまねふるさとフェア」

期 日：令和2年1月18日（土）～19日（日）

場 所：広島県立総合体育館（サンクンガーデン）

参加者数：5,563名（子供3,115名 大人2,448名）

内 容：プラ板キーホルダーづくり、チャレンジウォールキッズ、カプラ

成 果・チャレンジウォールキッズには、幼児から小学生、大人まで幅広い年代の方が、楽しく体験していた。

- ・プラ板キーホルダーづくりでは、島根のマスコットキャラクターを中心に、個性あふれる作品を創作していた。
- ・ファミリーに施設の設備や提供プログラム、事業の広報を積極的に行った。この活動が事業の参加申し込みにつながるなど、新たな利用者の獲得につながった。

課 題・大変多くの方の来場があったので、チャレンジウォールキッズの安全管理のため職員を十分に充てることが困難であった。



チャレンジウォールキッズに何度も挑戦する子もいました。



親子の触れ合いの機会になりました。



みんな熱中してプラ板キーホルダーづくりに取り組んでいました。

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑫

※平成 31 年 3 月実施分掲載

「春の彼岸市」「おおだ自然エネルギーパーク 2019」

期 日：平成 31 年 3 月 21 日（木）

場 所：大田市旧 NTT 駐車場

参加者数：450 名（子供 300 名 大人 150 名）

内 容：カラーキャンドルづくり、木工キーホルダーづくり、カプラ

成 果・おおだ未来づくり会議と連携することで、多くの家族にブースに立ち寄ってもらい、体験活動の提供や広報活動を行うことができた。

- ・今年のおおだ自然エネルギーパークのテーマが「災害への対策」ということで、カラーキャンドルづくりを通して、災害時へのろうそくの用途を参加者に知ってもらうことができた。

課 題・天候の都合でテント内でできる創作活動を提供したが、1 人 1 人の対応に時間を要した。参加者が、少しの指導で自由に長く活動できるプログラムを検討する必要性を感じた。

- ・参加費の必要なプログラムについては、気軽に参加できないことにつながり、見直す必要があると感じた。自然エネルギーパークということで、自然物を使ったもので活動を提供できないか検討する必要がある。



友達と会話をしながらキャンドルづくりを楽しんでいました。



作りたいものを自由に考えて、オリジナルキーホルダーを作りました。



親子でカプラを楽しんでいました。

3. 地域体験交流イベント情報誌「いわみん」との連携について

令和元年度「いわみの国をみんなで遊ぶ いわみん ガイドブック vol.12」発刊に向けて

「いわみん実行委員会事務局(一般社団法人イワミノチカラ)」(以下、「いわみん事務局」という)と連携し、地域体験活動情報誌「いわみの国をみんなで遊ぶ いわみん ガイドブック vol.12」(以下、「いわみん」という)を発刊した。「いわみん」は、石見地域を知り、楽しさや、暮らし心地を実感してもらうための体験プログラムを集めたものである。また、地域とのつながりを活かした幅広い広報活動を展開し、様々な地域からプログラム実施者・参加者を募っている。今年度は、三瓶地域協育ネットワークから、4つの体験プログラムの提供と2つの広告を掲載するとともに、運営面での補助をしながら、「体験の風をおこそう」運動の啓発を行っていった。

ガイドブック表



①「いわみん」の発刊及び参加状況について

○開催期間 2019年10月25日(金)～12月8日(日)

○予約開始日 2019年10月1日(月)

○開催エリア 大田市／江津市／浜田市／益田市／美郷町／川本町／邑南町

○プログラム数 65プログラム(プログラム回数:234回)

○配布数 ガイドブック 18,000部

ポスター 400部

チラシ(親子体験紹介) 28,000部(幼稚園や小学校に配布)

○配布地域 島根県内の幼稚園、保育園、小学校、島根県並びに広島県内の道の駅、ショップ、青少年教育施設、図書館、市長村役場 等

○参加者数 913人

②「いわみん」提供プログラムについて

三瓶地域協育ネットワークから2つの宿泊体験プログラム、連携団体による2つの体験プログラムを掲載している。

○「誰でも安心 はじめてのボルダリング体験！」 ※P20 掲載

○『日本百名山』への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～ ※P21 掲載

○「さんべでミルクざんまい! In Autumn」 ※P23 掲載

○「かまどでごはんたき」 ※プログラム中止

「さんべでミルクざんまい! In Autumn」は、予約から盛況で、予約開始1週間で、キャンセル待ちの状態となった。「誰でも安心 はじめてのボルダリング体験!」には、遠方、広島市からの参加者があった。また、参加をきっかけに継続して、ボルダリングに取り組んでいる方がある。『日本百名山』への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～ は、参加者の満足度が高く、秋の三瓶山登山を満喫していた。

「いわみん」掲載のプログラム



03 誰でも安心
はじめてのボルダリング体験!
「誰でも安心」はじめてのボルダリング体験! 石見地域の自然を満喫しながら、ボルダリングの楽しさを体験しよう。

10/27(土) 11/3(土) 17(土) 24(土)
13:00～15:00(集合場所は13:00前にお集まりください)
開催場所 国立三瓶青少年交流の家 事務室前
(集合場所) 国道2号三瓶青少年交流の家 事務室前
(大田市の中心部から徒歩15分)

参加料 200円
定員 15名(最少参加人数1名)
持ち物 運動靴、汗拭きタオル、飲み物、お弁当(お弁当は持ち帰りです)
申し込み 10/27(土) 11/3(土) 17(土) 24(土) まで
申し込み先 国立三瓶青少年交流の家 事務室前
電話 0854-86-0331(受付時間:9:30～17:00)

三瓶地域協育ネットワーク事務局 協賛 国産米
〒854-8603 大田市 0854-86-0331(受付時間:9:30～17:00)



08 さんべでミルクざんまい!
In Autumn
さんべでミルクざんまい! In Autumn さんべでミルクざんまい! In Autumn さんべでミルクざんまい! In Autumn

10/27(土) 11/3(土) 17(土) 24(土)
13:00～15:00(集合場所は13:00前にお集まりください)
開催場所 国立三瓶青少年交流の家 事務室前
(集合場所) 国道2号三瓶青少年交流の家 事務室前
(大田市の中心部から徒歩15分)

参加料 200円(最少参加人数1名)
定員 15名(最少参加人数1名)
持ち物 運動靴、汗拭きタオル、飲み物、お弁当(お弁当は持ち帰りです)
申し込み 10/27(土) 11/3(土) 17(土) 24(土) まで
申し込み先 国立三瓶青少年交流の家 事務室前
電話 0854-86-0331(受付時間:9:30～17:00)

三瓶地域協育ネットワーク事務局 協賛 国産米
〒854-8603 大田市 0854-86-0331(受付時間:9:30～17:00)

1日目	2日目
13:00 集合行事 オリエンテーション	7:00 起床
19:15 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	7:00 朝のつどい・清掃
20:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	7:00 朝食・金支度
21:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	8:00 温泉入浴
22:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	9:00 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
23:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	14:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
24:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	15:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
25:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	16:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
26:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	17:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
27:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	18:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
28:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	19:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
29:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	20:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
30:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	21:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
31:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	22:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
32:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	23:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
33:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	24:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
34:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	25:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
35:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	26:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
36:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	27:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
37:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	28:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
38:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	29:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
39:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	30:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
40:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	31:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
41:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	32:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
42:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	33:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
43:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	34:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
44:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	35:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
45:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	36:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
46:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	37:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
47:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	38:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
48:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	39:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
49:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	40:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
50:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	41:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
51:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	42:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
52:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	43:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
53:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	44:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
54:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	45:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
55:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	46:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
56:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	47:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
57:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	48:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
58:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	49:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
59:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	50:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
60:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	51:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
61:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	52:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
62:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	53:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
63:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	54:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
64:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	55:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
65:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	56:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
66:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	57:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
67:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	58:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
68:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	59:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
69:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	60:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
70:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	61:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
71:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	62:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
72:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	63:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
73:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	64:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
74:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	65:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
75:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	66:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
76:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	67:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
77:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	68:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
78:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	69:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
79:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	70:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
80:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	71:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
81:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	72:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
82:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	73:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
83:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	74:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
84:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	75:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
85:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	76:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
86:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	77:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
87:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	78:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
88:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	79:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
89:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	80:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
90:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	81:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
91:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	82:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
92:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	83:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
93:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	84:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
94:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	85:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
95:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	86:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
96:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	87:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
97:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	88:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
98:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	89:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
99:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	90:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
100:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	91:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
101:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	92:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
102:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	93:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
103:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	94:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
104:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	95:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
105:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	96:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
106:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	97:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
107:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	98:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
108:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	99:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
109:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	100:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
110:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	101:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
111:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	102:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
112:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	103:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
113:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	104:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
114:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	105:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
115:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	106:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
116:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	107:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
117:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	108:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
118:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	109:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
119:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	110:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
120:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	111:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
121:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	112:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
122:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	113:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
123:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	114:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
124:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	115:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
125:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	116:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
126:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	117:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
127:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	118:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
128:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	119:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
129:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	120:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
130:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	121:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
131:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	122:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
132:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	123:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
133:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	124:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
134:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	125:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
135:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	126:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
136:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	127:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
137:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	128:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
138:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	129:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
139:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	130:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
140:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	131:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
141:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	132:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
142:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	133:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
143:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	134:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
144:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	135:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
145:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	136:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
146:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	137:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
147:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	138:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
148:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	139:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
149:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	140:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
150:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	141:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
151:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	142:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
152:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	143:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
153:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	144:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
154:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	145:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
155:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	146:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
156:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	147:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
157:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	148:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
158:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	149:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
159:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	150:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
160:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	151:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
161:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	152:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
162:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	153:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
163:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	154:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
164:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	155:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
165:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	156:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
166:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	157:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
167:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	158:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
168:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	159:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
169:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	160:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
170:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	161:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
171:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	162:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
172:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	163:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
173:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	164:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
174:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	165:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
175:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	166:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
176:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	167:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
177:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	168:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～
178:30 夕食 日本百名山への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～	169:30 三瓶山登山 ～三瓶山へ～

③ 「いわみん」掲載広告について

「いわみん」裏表紙と見開きページに広告を掲載した。裏表紙には、三瓶周辺地域が一体となり実施している「第41回さんべ祭」のPR広告を掲載している。見開きページには、三瓶地域協育ネットワークの組織を知ってもらい、また、三瓶周辺地域の観光につなげられるように「さんべまると体験マップ」を掲載している。



ガイドブック裏表紙「さんべ祭」

ガイドブック見開きページ「さんべまるとマップ」

④ 「いわみん」アンケート結果について

○全体の満足度 平均点 94.5点

○良かった点

- ・子供がのびのびしてよかった。
- ・レアな情報や、冒険ができて楽しかった。専門の知識を持っている方の話が聞けて充実感があつた。
- ・子供だけでなく大人にも貴重な体験になった。
- ・これまで体験するタイミングがなかなかなかったので手軽に取り組めてよかった。
- ・メンバーがとても楽しくて、和気あいあいでした。
- ・初めての体験、地域の方とのふれあい、景色、すべてが楽しかった。
- ・美味しい物を食べながら交流できるのが最高！若い人との交流は元気をもらえるので良い！
- ・ものづくりのプログラムがたくさんあってこれからはぜひ体験してみたい。

○改善点・要望

- ・もう少しやり方やコツを聞きたかった。
- ・終了時間を守ってほしい。
- ・開催場所がわかりづらかった。
- ・説明の中にわからない用語や地名があった
- ・段取りが悪かった。
- ・他の人と交流する時間があると、なお良かった。
- ・待ち時間が長かったので、その間にすることがあればよかった。
- ・手頃な金額もあるが、高めのものもあるのでもう少し安いと参加しやすい。
- ・曜日、時間帯等、参加したくてもなかなか参加できないことがある。

令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「誰でも安心 はじめてのボルダリング体験！」

- 1 案 内 人 さんベクライマーズクラブ 遠藤 大介
- 2 開 催 日 時 ①令和元年10月27日(日) 13:00～15:00
②令和元年11月3日(日) 13:00～15:00
③令和元年11月17日(日) 13:00～15:00
④令和元年11月24日(日) 13:00～15:00
- 3 開 催 場 所 国立三瓶青少年交流の家 卓球場
- 4 参 加 者 数 ①子供5人 大人7人 計12人
②子供8人 大人6人 計14人
③子供10人 大人5人 計15人
④子供2人 大人0人 計2人
- 5 内 容 ・2020年の東京オリンピックの正式種目になったボルダリングを、国立三瓶青少年交流の家の設備を使って行う初心者向けプログラム。
- 6 参加者のアンケート結果 28人回答 (人)

	100点	90点	80点	70点	50点
満足度	14	4	8	1	1

- ・初めて参加しました。とても難しかったです。かなり腕の力や頭脳を使うので、大変でしたがとても楽しいイベントでした。
- ・子どもが体験し、楽しそうでした。今回は、下の子がいるので、見学していましたが、次回は自分も体験してみたいです。
- ・楽しかったです。家族みんなで楽しみました。またやりたいです。
- ・登り方のコツなどを詳しく教えてもらいたい。
- ・怖かったし、初めてだったので、手の皮がむけた。

7 成果と課題

《成 果》

- ・オリンピック種目になったボルダリングを低料金で体験できることから、多くの参加者に喜んでもらった。家族での参加は、体験するのは子ども中心であるが、親も同じように楽しまれ、家族間の交流を図ることができていた。参加者の中には、「また、参加したい。」という声があり、このイベントをきっかけに本格的にボルダリングを始められた方がいる。

《課 題》

- ・ボルダリングの技能を高めたいと望んでいる方が参加している。遠慮することなく、積極的に技術指導をしていくことで、参加者のニーズに応えられるようにしていきたい。また、新設されるキッズ用のボルダリングの活用を進めていきたい。



令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「いわみん2019秋」掲載プログラム

「日本百名山」への招待状 ～錦秋の三瓶山へ～

1 趣 旨

- ・多様な登山コースと変化に富んだ展望が魅力である日本二百名山・三瓶山が紅葉に彩られる季節の登山事業を通じて、三瓶山の魅力、登山の楽しさを発信する。
- ・多くのファンを持つ深田久弥氏の著書「日本百名山」の世界と、三瓶山登山を連動させたプログラム構成とすることで、多様で奥深い登山の魅力を紹介する。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ①10/28 (月) ～10/29 (火) 1泊2日
②11/3 (日) ～11/4 (月/振替休日) 1泊2日
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家・三瓶山
- (3) 対 象 18歳以上
- (4) 参加者 ①3名 ②9名 ※定員30名
- (5) 日程 (①、②共通)

1日目

19:00	19:15	20:30	21:30	22:30
開会行事	日本百名山への招待状 ～日本百名山トークコーナー～	情報交流会 ～山について語り合いましょう～	入浴 休憩 就寝	

2日目

6:30	7:00	7:40	8:40	9:00	14:30	14:40
起床	朝のつどい 清掃	朝食・清掃	退所点検	三瓶山登山 ～紅葉を味わうおすすめコース～	閉会行事 解散	

3 事業の特色

① 日本百名山への招待状～日本百名山トークコーナー

- ・実際に日本百名山を踏破した担当者が選んだおすすめの名山を、登山中の写真と、深田氏の「日本百名山」での描写と共に紹介した。
- ・「日本百名山への招待状」と題した資料を作成し、参加者に配布した。資料には百座全ての写真、担当者による紹介文、深田氏の「日本百名山」での描写を掲載することで、事業終了後も、参加者が資料を通じて継続的に登山に親しむ契機となることを意図した。
- ・紹介する日本百名山については、参加者からのリクエストに担当者が応える形式とすることで、参加者がより主体的に事業に参加できるようにした。

② 情報交流会～山について語り合いましょう～

- ・参加者間の情報交流を通じて、親睦を深めた。
- ・会場には、パソコンとモニターを準備して、直前のプログラムでは紹介しきれなかった「日

本百名山」についても、参加者の要望に応じて、紹介できるようにした。

③ 三瓶山登山～紅葉を味わうおすすめコース～

・登山コースについては、「名号登山口⇒女三瓶山⇒大平山⇒室の内池⇒奥の湯峠⇒孫三瓶山⇒風越⇒夫婦松登山口」とした。参加者の年齢層、登山経験等を考慮した上で、必要な体力・難易度に余裕のあるコースを設定し、室の内池を中心に複数のピークが環状に連なる三瓶山の特徴である変化に富む展望を参加者が時間をかけて楽しめるようにした。

4 参加者へのアンケート結果

①年齢層

10代（1名）、20代（2名）、40代（1名）、50代（3名）、60代（2名）、70代（3名）

②住所

島根県：浜田市（6名）、大田市（1名） 広島県：広島市（3名）、岡山県：倉敷市（2名）

③全体の満足度（100点満点で採点）

100点（5名）、99点（1名）、95点（1名）、90点（1名）、80点（1名）、未記入（3名）

④「いわみん」のプログラムの参加経験者

13名中5名（浜田市4名、大田市1名）

⑤参加形態

家族：3家族7名 友人同士：1組2名、個人：3名

⑥アンケート結果分析

- ・「いわみん」の知名度が高い島根県西部地域からの参加者が全体の約半数を占めている。
- ・県外からの参加者については、三瓶青少年交流の家の利用経験がある知り合いからの紹介で事業を知った人や、三瓶青少年交流の家の宿泊利用をきっかけに事業を知った人がいた。
- ・アンケートから読み取れる参加者層は、「三瓶地域への来訪経験があり、三瓶地域に興味を持っている人」、「登山に興味がある人【登山愛好家ではなく、初心者またはライト層】」、「体験活動全般に興味があり、「いわみん」等のプログラムにも参加している人」等が挙げられる。

5 成果と課題

- ・登山事業は、三瓶地域協育ネットワークとしても初めての試みであったが、アンケート結果からも参加者の満足度は平均的に高く、登山事業に一定のニーズがあることが確認できた。
- ・参加対象を18歳以上に限定し、一部日程を平日開催としたこともあり、両日程共に参加者が定員を大幅に割り込んだ。危険度の高い登山事業では、事業の質（満足度、安全性）の担保と参加者数の確保を両立させることは容易ではないが、次年度以降も継続実施する場合は、事業目的に即した参加対象と定員の設定、参加対象を踏まえたプログラム内容についての再検証を要する。



令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「さんべでミルクさんまい！ in Autumn」

1 趣 旨

- ・地域の資源を活かしたプログラムを提供することで、三瓶地域の魅力に気づく。
- ・「生産→消費」のストーリーを取り入れ、「本物」の体験を提供し、より充実した体験活動の促進を図る。
- ・交流の家周辺で活動することで家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年 11 月 23 日（土）～11 月 24 日（日）＜1 泊 2 日＞
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家とその周辺
- (3) 協 力 福間牧場
- (4) 対 象 小学生とその家族
- (5) 参加者 25 名（9 家族） ※募集 30 名
- (6) 日程・研修内容

	13:00	14:00	17:10	19:00	20:00	22:30
11/23 (土)	は じ め の 会	【牧場体験】森をぬけて、福間牧場へ！ 牛さんは、どう過ごしている・・・？ 乳しぼり、エサやりなど、牧場体験に出かけよう♪	夕 べ の つ ど い	夕 食 ・ 入 浴	自主活動 (カブラの活動等)	入 浴 ・ 休 憩 ・ 就 寝

	6:30	7:00	7:40	8:40	9:30	13:30
11/24 (日)	起 床	朝 の つ ど い	清 掃	朝 食 ・ 清 掃	退 所 点 検	【野外炊飯】さんべでとれた牛乳で、あったかいシチューとパンをつくろう！ ダッチオーブンを使って、おいしいシチューとパンを作り、家族みんなで食べよう♪
						おわりの会 解散

3 事業の特色

① 事業の特色

本事業において、三瓶の地域資源を活かした「牧場体験」を実施後、実際に牧場でとれた牛乳を材料に用いてアウトドアクッキングを行うことで、プログラムに「生産→消費」のストーリー性を取り入れた。参加者が「本物」に触れることで、より充実した体験活動の促進を図った。また、複数家族 1 グループで活動することで、家族同士の交流の促進、子供たちの協働の場の提供を試みた。

② 運営のポイント

「牧場体験」と「アウトドアクッキング」については、牧場の魅力を伝えるため、牧場主と協議を重ね、プログラム全体に「生産者の想い」を反映できるよう心掛けた。

「牧場体験」については、参加者と牧場主の対話の中で臨機応変に対応してもらい、普段はなかなかできない体験を参加者に提供できるようにした。見学後は、牧場主の人柄に触れたり、実際の仕事内容や牛の一生を聞いたりする機会を設け、参加者がより「本物」に触れることができるようにした。

「アウトドアクッキング」では、グループごとに準備から後片付けまでを全て行うことで、協働

の場を設け、参加者同士の交流のきっかけをつくった。

③ 広報のポイント

「いわみん」に事業情報を掲載し、島根県西部を中心に広報を行った。掲載写真は、活動内容がわかりやすいものを選び、申込の段階で事業のイメージがしやすいようにした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

(%)

(2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

- ・ 普段飲んでいる牛乳がどのように生産されているのかを親子で実際に見てみたいと思い参加した。とても勉強になった。
- ・ 普段は家族だけで体験しにくい活動ができ、満足している。
- ・ 牧場さんの話を聞いて、牛乳は牛の命だから大切にしたいと思った。

5 成果と課題

《成 果》

- ・ 普段飲んでいる牛乳がどのように生産されているかを間近で体感し、「牛の命を大切にしたいと思った。」という参加者の言葉から、「本物」の体験を通して、物事の見え方が参加する前と後とでは変化があったと考える。
- ・ 担当者からの目線として、活動の準備から片づけを全て行うことで、幼児や小学生が積極的に動く様子が見られ、家族や他の人と協力しながら活動する楽しさを感じていた様子であった。
- ・ 牧場体験では、牛と様々な形で触れ合うことや生産者から実際の仕事内容や牛の一生の話を聞き、アウトドアクッキングでは、そのつながりを感じながら調理・食事をするため、「食」に対する関心を高めることができた。

《課 題》

- ・ 「ミルクざんまい」という事業名であるため、牧場主の思いをより反映したり、様々な場面で牛乳を活用させたりなど、世界観に引き付けるために工夫が必要である。
- ・ 牛の体調によっては、実施できない活動内容もあるため、生き物と触れ合う際の1つの学びとして、あらかじめ参加者に示しておくようにする。今回は、牧場主が臨機応変に対応してくれたことで、参加者が満足する体験ができた。今後は、参加者に牛の体調や牧場で体験できることについて伝え、話し合いながら、事業を進めることを検討したい。



4. 地域連携プログラムについて

当施設では、集団宿泊活動を実施する学校が、充実した体験活動ができるように様々なプログラムを準備してきた。その中で、地域との連携を図ることで、利用する学校に、三瓶及び大田市の魅力を感じてもらえるよう、三瓶地域協育ネットワーク事業所、各団体等と連携して平成 27(2015)年度から地域連携プログラムを導入している。

地域連携プログラムは、温かい地域の人々の人柄と恵まれた自然環境の中で、「本物」に触れることができ、豊かな心を育んでいく上で大変有効である。また、どのプログラムも教科等との関連をもたせ、学習指導要領に準拠した体験活動にしている。集団宿泊活動の中に地域連携プログラムを取り入れることで、教科での学びを深めるとともに、生きた学びを実体験することになる。

(1) 令和元年度の実施実績

今年度も、9つの地域連携プログラムを提供した。川魚の養殖をしている「やましる屋」が平成 30 年 4 月に発生した地震後の改修により、利用を制限した。そのため、昨年度広めた、養殖場の見学にあわせた、ヤマメのつかみどりや野外炊飯(1 食分の食事)が実施できなかった。しかし、隣接する島根県立自然館「サヒメル」でのプログラムを中心に、多くの学校が地域連携プログラムを実施した。特に、「JF しまね」による晩市(夕方のせり見学)を希望する学校が昨年 1 団体から 5 団体に増えた。社会科「私たちの生活と食料生産」にあわせて、実際のせりの様子を見ることで、学びを深めることができた。

実施プログラム		実施団体	体験人数
牧場見学		0 団体	0 人
川魚の養殖		1 団体	41 人
未来の森を作ってみよう		0 団体	0 人
銀山プログラム		3 団体	100 人
カヌー体験		10 団体	193 人
晩市(夕方のせり見学)		5 団体	197 人
博物館見学	自然館見学	58 団体	1897 人
	天体観察	111 団体	3018 人
実施回数		188 校	5446 人



(2) 地域連携プログラム

①JF しまね・大田市和江漁港(晩市:夕方のせり見学)

【第 5 学年・社会科「私たちの生活と食料生産」】

三瓶山に源を発する静間川の河口東側に平成 25 年に 4 つの魚市場が統合されて、現在の和江漁港が完成した。最新の設備が整えられた和江漁港で、全国でも珍しい晩市(夕方のせり)の様子を見学することができる。

②やましる屋(川魚の養殖)

【第 5 学年・理 科「動物の誕生」】【第 5 学年・社会科「私たちの生活と食料生産」】

三瓶山の豊富で澄み切った湧き水を利用して、数万匹のやまめ・いわなの養殖を行っている。大小いろいろな池があり、養殖の様子を間近で見学することができる。その場で炭火塩焼きにして食べたり、釣りや掴み取りをしたりできる。



③福間牧場(牧場見学:乳牛)

【第 5 学年・社会科「私たちの生活と食料生産」】

大自然三瓶山のふもとで飼育されている乳牛に、えさやり体験や乳しぼり体験を通して、直接触れ

合うことができる。また、生産者から牛乳を出荷するための様々な工夫や努力を聞くことができる。

④イワミ村田製作所（電子部品製造工場の見学）

【第5学年・社会科「これからの工業生産とわたしたち」】

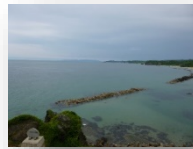
【第6学年・理科「電気と私たちの暮らし」】

イワミ村田製作所が生産しているコンデンサをはじめとする電子部品は、携帯電話、パソコン&周辺機器、テレビ&家電製品等、様々な電子機器に使用されている。世界的シェアを誇るムラタ製作所のものづくりの現場を間近に見ることができる。また、イワミ村田製作所で生産されている電子部品を活用した、科学実験の体験や、イワミ村田製作所で製作されたロボットの実演を見学できる。

⑤五十猛町（神話めぐり）

【第6学年・社会科「日本の歴史～縄文のむらから古墳のくにへ～」】

スサノオノミコトとその息子イソタケルノミコト上陸の地と伝えられる町、五十猛町を巡る。五十猛歴史研究会の方にガイドしていただきながら、絶景ポイントを見学し、神話への関心を高めることができる。



⑥遊々の森（未来の森を作ってみよう）

【第5学年・社会科「国土の環境を守る」】

自然豊かな三瓶の森で、グリーンシャワーを浴びながら未来の森を作り、「環境」について考える。三瓶周辺にある「遊々の森(国有林)」で、森林管理署森林官から“森の不思議”や“森の今”のお話を聞いたり、森林の間伐体験をしたりする。間伐した木材を使って、コースターやイスを作ることにもできる。

⑦石見銀山（銀山プログラム）

【第3学年 社会科「古い道具と昔の暮らし」】【第5学年 家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」】

【第6学年 社会科「江戸幕府と政治の安定」】

世界遺産「石見銀山」での活動プログラム。国の重要文化財に指定されている熊谷家住宅（約200年前に建築された建物）において、かまどを使ってご飯を炊いたり、七輪を用いて魚を焼いたりといった昔のくらしの生活体験ができる。また、豊かな自然、歴史ある街並みを眺めたり、龍源寺間歩、石見銀山資料館、世界遺産センター等の見学・体験で、銀の採掘の歴史を探ったりできる。

⑧カヌーの里おおち（カヌー体験）

【体育 「水辺活動～カヌーをしよう～」】

大田市の隣、美郷町の「カヌーの里おおち」では、カヌーの体験ができる。江の川でのカヌーを体験しながら景色を楽しみ、自然と一体になれる。また、きれいな水で泳いだり、川魚を観察したりもできる。

⑨三瓶自然館「サヒメル」

【第6学年・理科「土地のつくりと変化～火山の噴火によってできた地形～」】

※三瓶自然館「サヒメル」・三瓶青少年交流の家と連携した学習指導案あり

三瓶青少年交流の家に隣接する県立博物館で、生物・地質・天体等の自然に関する常設展示や企画展示の見学をする。ビジュアルドームでの大型ドーム映像・プラネタリウムの視聴や、学芸員による天体・自然観察会等の学習利用を通じて、自然への興味・関心を高めたり、理科の学びを深めたりすることができる。



5. 「第41回さんべ祭」について

令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「第41回 さんべ祭」

1 趣 旨

- ・三瓶山周辺地域の施設・団体が、連携・協同して地域の魅力を発信することで、三瓶山周辺地域の良さを知ってもらうとともに、地域の活性化を図る。
- ・島根県西部地震から1年が経過したことから、地震からの復興と今後の発展を願うとともに、防災に関する意識を高める。

2 事業の概要

テーマ：『よーい(41)どん！ 令和もさんべでよよいのよい (41)』

三瓶の魅力であり、参加施設の強みである「体験」「文化」「交流」「健康」を活かした様々な企画を展開し、三瓶地域の魅力を伝えることで、参加者に三瓶地域を好きになってもらう。また、いろいろな地域から家族やグループが三瓶地域に集まることで、多くの交流が生まれる契機とする。

41回目を迎えるさんべ祭が、新しい時代の幕開けとなることを願い、『よーい(41)どん！ 令和もさんべでよよいのよい (41)』とした。

(1) 期 日 令和元年10月19日(土)ー10月20日(日)

(2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル、三瓶こもれびの広場木工館
三瓶山北の原キャンプ場・大田市山村留学センター・SANBE BURGER・山の駅さんべ

(3) 来場者 日帰り2日間総計：8,242人 宿泊：200人

(4) 日程・内容

○ステージ発表

【19日(土)】講堂ステージ 神楽 11:00～16:00 三瓶神楽実行委員会 (開場10:00)

- ・大屋神楽社中「達谷窟」^{たつこくのいわや} ・後野神楽社中「頼政」「大蛇」 ・穴笠神楽団「伊吹山」「戸隠山」
- ・夜神楽 19:00～21:00(宿泊者対象) 多根神楽団「恵比寿」「大蛇」

【20日(日)】広場ステージ 10:00～15:00 ※雨天時：講堂

- ・山村留学センター「北三瓶っ子太鼓クラブ」 ・大社高等学校 合唱部
- ・地域で活動している、団体 ・近隣のキャラクター(しまねっこ みさ坊 らとちゃん 等)
- ・エンディング「よしと」 14:20～15:00

○体験ブース

- ・ボルダリング体験 ・さんべ夢ステージ(ボランティアによる企画) ・石見交通バス乗車体験
- ・自衛隊 防災に関する企画 ・大田高等学校茶道部 ・ドローン体験 ・木工館
- ・山村留学センター ・チチヤス ・神楽面 ・森林管理署 ・美郷町観光協会 等

○三瓶地域の物産展示・販売

新鮮野菜、菓子、加工品、パン、小物、そば、天ぷら、焼きそば、からあげ、しまねの工芸品
やまめの塩焼き(つかみ取り)、民芸品、ジュース、フリーマーケット 等

○三瓶ウォーク 10月20日(日)

○さんべそば祭り 西の原 10月20日(日)

3 事業の特色

さんべ祭は、三瓶周辺地域の魅力発信と活性化に重点を置き、三瓶周辺地域の施設・団体との連携・協働のもと、実施していくことを意識している。

初日のメインを「さんべ神楽大会」、2日目を「ステージ発表」とした。今年度、石見神楽が「日本文化遺産」に認定された。神楽の魅力を多くの人に実感してもらえるように、神楽のチラシ・ポスターを先

行し配布する方法で広報に務めた。ステージ発表は、マスコットキャラクターの登場や島根を中心に絵本紙芝居で活躍されている「よしと」氏によるエンディングの他、周辺地域で活躍している団体に各種発表をしてもらった。

体験ブースでは、石見交通のバス乗車体験、大田高等学校茶道部のお茶席等の地域に根差した体験活動の場を提供した。また、三瓶地域協育ネットワークの体験ブースとして、美郷町観光協会、山村留学センター、森林管理署、福間牧場の紹介で「三瓶高原牛乳」を製造しているチチヤス等に、様々な体験活動の場を提供していただいた。さらに、島根県西部地震から1年が経過し、地震からの復興と、防災を意識するために、災害時のグッズやパネル、車両を展示する等、自衛隊の体験ブースを設置した。

さらには、宿泊しての利用を広めるために、夜神楽を開催し、神楽の鑑賞と衣装を着る体験を設定した。翌朝には、宿泊者限定企画として、ノルディックウォーク、ボルダリング、ヨガ、さんペリンピックを開催し、宿泊者が充実した時間を過ごせるようにした。

4 成果と課題

《成 果》

- ・内容の充実化と、松江市方面の広報を充実させるとともに、宿泊者対象のプログラム（夜神楽、朝活）を充実させたことに伴い、宿泊利用者が倍増となった。今後も1泊2日の宿泊型のイベントとして、「さんべ祭」を継続して、持続可能な形で実施する上での実施のノウハウが定まった年となった。次年度以降も方向性を大きく変える必要は無く、基本的に、今年度の形式を踏襲しながら、出た問題点を精査し、運営の負担軽減も含め 開催方法を探ることが出来れば、イベントとして良い方向に向かうと思う。
- ・今年度は、所内全体の会など、動きはじめが早くてよかった。出展団体との連絡など、担当としての見通しも立てやすく、早めに動けた。何よりも、1日目の神楽メイン、夜の神楽イベントが定着してきたこともあり、宿泊人数に繋がられたのが良かった。

《課 題》

- ・今年度は今までと比べ、動き出しが早かった。しかし、結局直前にあわただしくなることになっていた。やはり情報共有が課題であると思うので、業務の忙しい環境等に関係なく共有できる場の設定が必要であると感じた。
- ・「1日目のメインを神楽にするなら、展示や体験ブースはどうするのか。」「販売関係にどのくらい呼びかけ、出店してもらうのか。」等、1日目にやることと、2日目にやることを整理する必要がある。



さんべ祭チラシ



さんべ祭神楽チラシ



8. 令和元年度「三瓶地域協育ネットワーク」事業参加・協力団体の皆様

(順不同)

大田市教育委員会社会教育課	島根日日新聞
大田市観光協会	つりぼり やましろ屋
三瓶ブロックまちづくり委員会	桃太郎農園
福間牧場	琴引フォレストパークスキー場
五十猛歴史研究会	和江漁港
農事組合法人百姓天国	熊谷家住宅
美郷町観光協会	カヌーの里おおち
子ご美の里	林野庁近畿中国森林管理局島根森林管理署
イワミノチカラ	石見銀山ガイドの会
山陰中央新報社	三瓶こもれびの広場木工館
大田市山村留学センター	石見ワイナリー
(株) イワミ村田製作所	SANBE BURGER
地球堂模型	さんべそば推進会議
島根県立三瓶自然館サヒメル・三瓶小豆原埋没林公園	さんベクライマーズクラブ
島根県立少年自然の家	小林工房
島根県立青少年の家	国民宿舎 さんべ荘
池田まちづくりセンター	さんベウォーク実行委員会
志学まちづくりセンター	島根県オリエンテーリング協会
北三瓶まちづくりセンター	島根県立大田高等学校茶道部
大田市立長久小学校	東の原観光リフト
大田市立五十猛小学校	山口郷土館
大田市立北三瓶小・中学校	交流の家研修指導員
多根神楽団	島根大学 (ボランティア)
(株) necco	島根県立大学 (ボランティア)
さんべヘルスツーリズム協議会	島根県立大田高等学校 (ボランティア)
島根県技術士会	島根県立邇摩高等学校 (ボランティア)
ゴールデンユートピアおおち	国立三瓶青少年交流の家
美郷町観光開発公社	
NHK 松江放送局	
石見銀山テレビ放送	
出雲ケーブルビジョン	